

CASBEE[®]新潟 | 評価結果 |



■使用評価マニュアル: CASBEE新潟マニュアル、CASBEE-新築(簡易版)2008年版
 ■使用評価ソフト: CASBEE新潟(v.1.1)

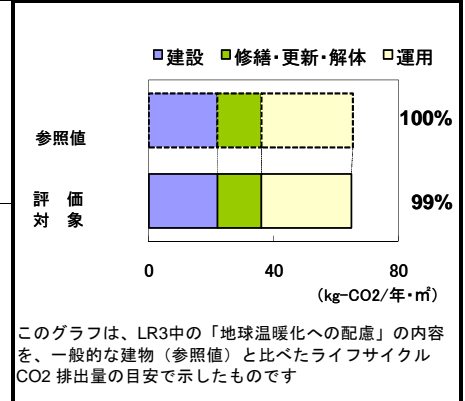
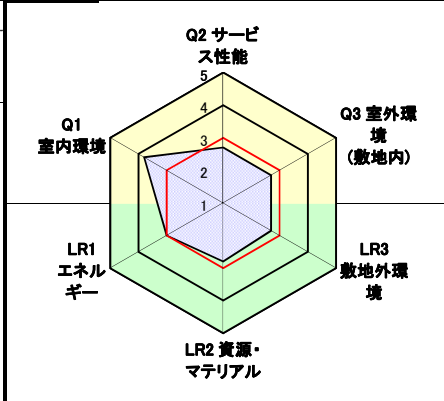
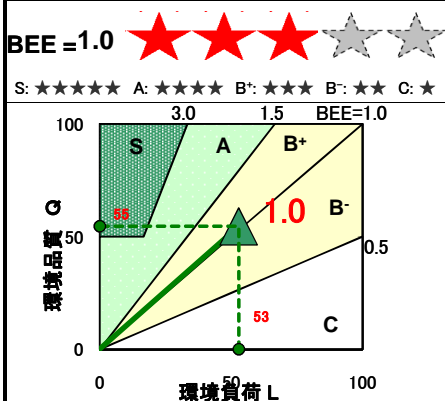
1. 建物概要					
建物名称	新潟刑務所 職員宿舎A				
建設地	江南区 山二ツ381-4				
用途地域	指定なし				
建物用途	集合住宅				
竣工年	2012年3月 予定				
敷地面積	84,076.20 m ²				
建築面積	602.88 m ²				
延床面積	2,572.82 m ²				
階数	地上5F				
構造	RC造				
評価の段階	実施設計段階評価				
評価の実施日	2010年5月25日				
2. CASBEE新潟の評価結果					
		B+	$BEE = \frac{Q \text{ 建築物の環境品質}}{L \text{ 建築物の環境負荷低減性}} = \frac{55}{53} = 1.0$		
S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★					
3. 新潟市の重点項目の評価					
1. 長寿命化の取組み 誰もがずっと安心して生活するために	平均スコア 2.9		バリアフリー	Q2.1.1.3	3
			維持管理	Q2.1.3	4
			更新性	Q2.3.3	2
2. 地震への取組み かけがえのない人命、財産、思い出を守るために	平均スコア 2.7		耐震・免震	Q2.2.1	3
			信頼性	Q2.2.4	2
3. 大雨への取組み 大雨につよいまちづくりのために	平均スコア 3.0		雨水排水負荷低減	LR3.2.3.1	3
4. 自然エネルギー利用の取組み 地球温暖化対策のために	平均スコア 3.0		建物の熱負荷抑制	LR1.1	3
			自然エネルギー利用	LR1.2	3
5. 資源循環の取組み 持続可能な循環型社会づくりのために	平均スコア 2.7		節水	LR2.1.1	3
			リサイクル材の使用	LR2.2.4	1
			再利用可能性向上	LR2.2.6	4
6. 水と緑を活かす取組み 豊かな田園空間を次世代に引き継ぐために	平均スコア 2.5		生物環境の保全・創出	Q3.1	2
			敷地内温熱環境の向上	Q3.3.2	3
7. 新潟のまちなみへの取組み 地域の魅力を伝承・創造していくために	平均スコア 3.0		まちなみ・景観への配慮	Q3.2	3
			地域性への配慮、快適性の向上	Q3.3.1	3
4. 新潟市の重点項目の配慮事項					
新潟市の重点項目に関する配慮事項を記載してください。					
<p>人命の確保、財産・思い出を守るために、建築基準法に則ったり、堅実な構造計画をしています。 敷地内には、雨水浸透施設を設置し、雨水の敷地外への流出を出来るだけ少量に抑えるよう、計画しています。 日影規制の無い区域ですが、冬至日の5h/3h/4mの日影が隣地へかからないような配置計画としています。 道路沿いは積極的に緑化し、周辺地域への潤いを演出します。</p>					

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

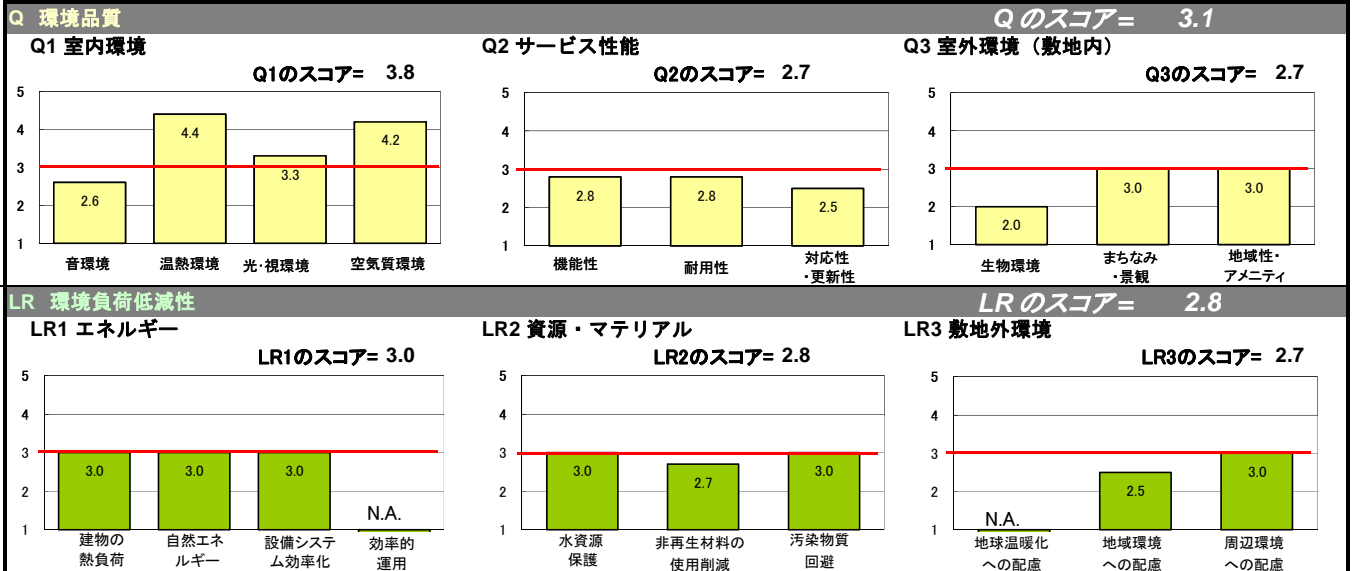
CASBEE[®]新潟 | 評価結果内訳 |

■ 使用評価マニュアル: CASBEE新潟マニュアル、CASBEE-新築 (簡易版) 2008年版 使用評価ソフト: CASBEE新潟(v.1.1)

2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート) 2-2 大項目の評価 (レーダーチャート) 2-3 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)



2-4 中項目の評価 (バーチャート)



2-5 設計上の配慮事項

総合 取容施設のある敷地のもっとも外側に職員宿舎を配置することで、周辺環境との調和を図ります。	その他
Q1 室内環境 汎用性のある仕上材を選定し、維持管理が容易になるように考慮しています。 建物配置を東西に長くすることで、すべての住戸の南側に開口を設け、効率的な昼光利用を行っています。	Q2 サービス性能 階段室型を採用し、プライバシーの確保に努めています。
LR1 エネルギー 住宅のほぼ全体が、外皮に2方向面しており、有効な採光・通風が確保されている。	LR2 資源・マテリアル GL工法を採用し、躯体と仕上げが分離しやすい計画としている。
	Q3 室外環境 (敷地内) 道路沿いにはハナミズキとフッキソウを植樹し、立体的に緑化します。また、既存のモミジも移植し、周辺に潤いのある緑化空間を提供します。
	LR3 敷地外環境 日影規制の無い区域ですが、冬至日の5h/3h/4mの日影が隣地へかからないような配置計画としています。

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■ 「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修・解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■ 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される